

姉妹都市締結 50 周年記念 安東市訪問事業参加報告書

議員 佐藤 政人

期 間	令和 6 年 4 月 23 日（火）～ 26 日（金）
訪問先	韓国 安東市
感想・所見など 「初の安東市訪問事業を終えて」 姉妹都市締結 50 周年の節目の年に、安東市を訪問する機会を得られたこと、大変光栄に思います。50 年前の 1974 年 2 月 4 日に、寒河江市と安東市が姉妹都市締結したことが、本市の国際交流のスタートになったことと思います。そして、50 年という月日が、両市にとってどのような時間であったのかを紐解くことができたと思います。 安東市役所訪問時には、突然の雨で屋外行事が屋内での行事に変更されましたが、佐藤市長の挨拶の中で、「国の政治に左右されずに交流ができたことに大きな意味がある」と述べられていた言葉が強く印象に残りました。市民レベルの交流では、国の政治は全く関係がなく、人と人との交流が大事なのだと痛感しました。 歓迎式や懇談会、そして記念式典など、多くの行事に参加して、安東市議会議員の皆様や、通訳やガイドでお世話になった市役所職員、そして多くの職員の方々に大変な歓迎を受けたことも感謝したいと思います。また、当日の現地テレビ局のニュースでも、本市の訪問事業が放送されていたことも、通訳の方からお聞きしましたが、大変ありがたく思いました。 安東市の人口は約 15 万 3,000 人と本市の約 4 倍、面積についても約 1,520 km²と本市の約 10 倍の大きな山間部の都市ですが、標高 1,000m を超える高い山があまり無い感じを受けました。また、基幹産業は農業と観光であることは、本市との共通するところで、畑・田んぼ・果樹園・ハウスなどが大変多く見受けられると同時に、多くの景勝地や歴史的・文化的遺産が点在している印象を受けました。 しかし、安東市議会議員の方や職員とお話をする中で、少子高齢化は本市以上に深刻で、ピーク時には 30 万人を超えていた人口も減少著しく、将来的には 6 万人程度になると予測されているようでした。また、大学 3 校・高校 8 校・中学校 5 校・小学校 8 校と、教育環境はかなり充実しているようでしたが、大学を卒業すると多くの若者はソウル市近郊に出て行ってしまうということが大きな課題となっているようです。結婚事情もなかなか大変のようで、韓国では仕事を持って家を持たないと結婚できないとも言っていました。 また、議員の定数についても質問しました。人口約 1 万人あたり 1 名で、合計 15 名だそうで、兼業が認められていないことなどが大きな違いと感じました。 今回の訪問で他国の地方自治に初めて触れたわけですが、日本との違いも垣間見ることができました。交流から 100 年後も変わらぬ関係が続くことを期待したいと思います。	